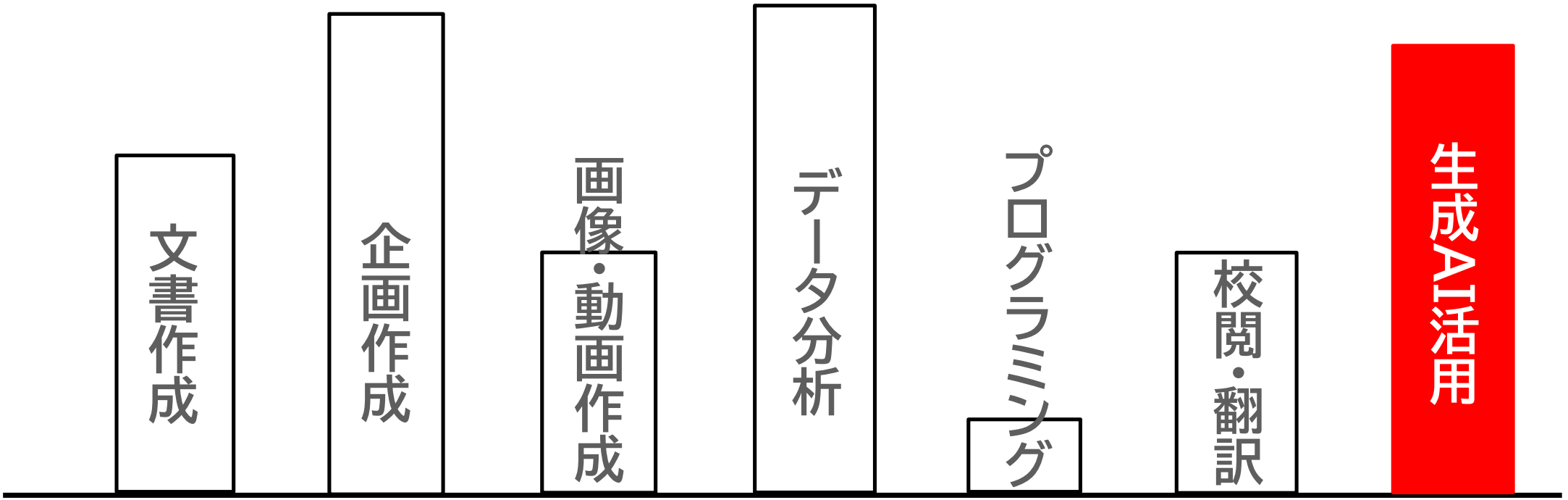
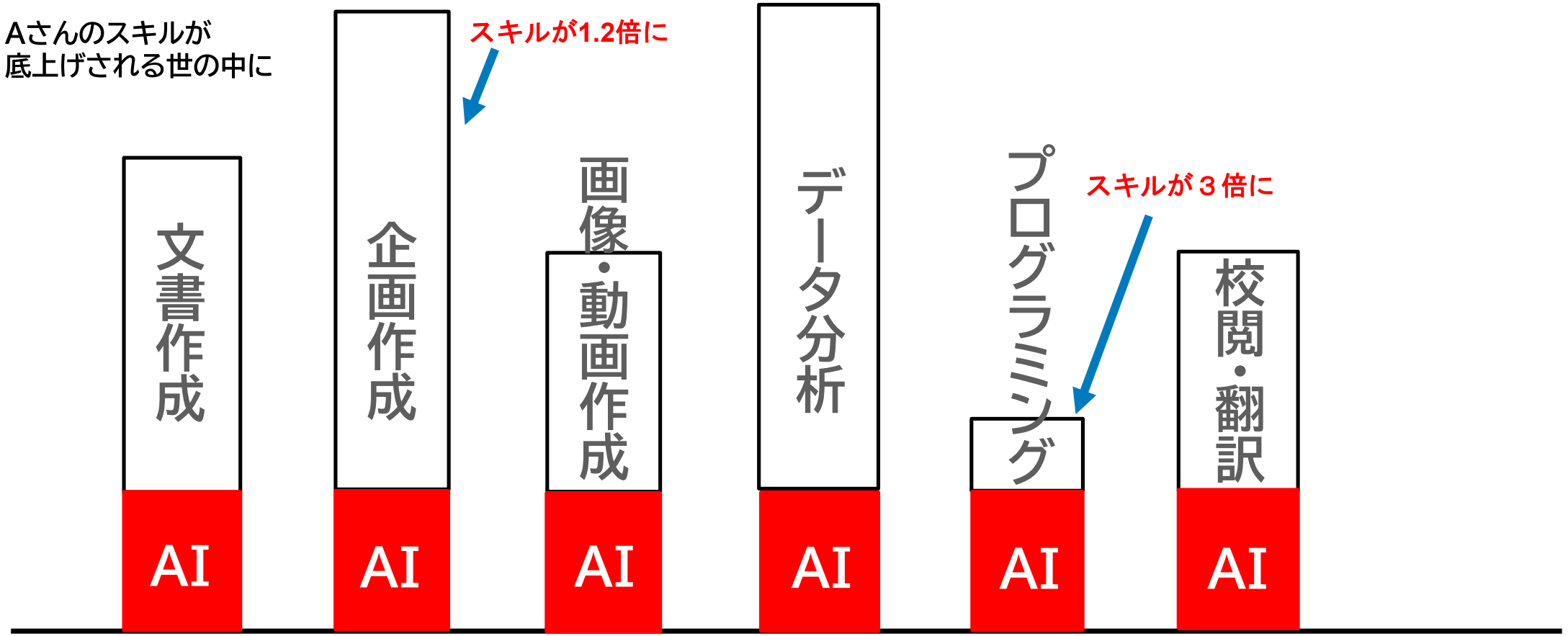
生成AIの活用スキルは独立して存在するもの・・・？

Aさんのスキルのイメージ



ではなく、
生成AIは人間のスキルの格差の解消に繋がるものではないか。
デジタルを含むスキルが十分でない人ほど受ける恩恵は大きい！



業務時間短縮の想定（概算）

（令和5年6月5日横須賀市発表資料ChatGPT活用実証結果報告より）

○文書作成事務における業務時間短縮の想定（概算）

1,913人×29.3%×10分×243日 ≒ 22,700時間/年

○算出条件

・令和5年5月31日時点でのChatGPT利用者数　⇒　1,913人
・文書作成に使っている割合　⇒　29.3%（第2回アンケート結果より）
・文書作成で短縮できる時間　⇒　10分（ヒアリングによる文書作成における業務時間の実績目安より）
・年間活用日数　⇒　243日（令和4年度年間所定労働日数より）

本日お話すること

1　生成AIの概要

2　役所内での利用実態と利用者の傾向

3　役所内での普及方法

4　市民向けの活用事例

5　生成AIの今後の見通し

6　まとめ

普及に際して心がけてきたこと

新しい技術、特にAIはなんか怖いよ・・・
生成AIは間違えることもあるって報道もあるし・・・



それ、まずは実際に触れてから決めませんか？

触ってもらうためにどんな工夫してきたのか

1. チャットGPT通信で継続的に利用喚起を図ってきた
   →40代、50代歓喜！「ファミ〇ン通信」を意識した裏技満載攻略本！
   読んでもらうハードルを徹底的に下げ、定期発行で意識の継続。
   予算策定の時期には、「予算要求資料にこう使おう」というような内容で、
   読み手のニーズに応じた紙面構成。

2. チャットGPT研修を行ってきた
   →深津貴之氏プロデュースのオリジナル研修。
   深津さんの凄さを前面に押し出し、大量の職員の集客を実現。

3. 活用コンテスト、ホワイトハッカーコンテストなど
   内部イベントを継続して実施してきた
   →イベント継続で生成AI活用を「参加型の文化祭」のノリに。

職員に周知しているルール

【注意事項】

- ✓ インターネットを介して使用するサービスです。機密性の高い情報や個人情報、守秘義務のある情報は書かないでください。
- ✓ 回答が正しいとは限りません。あくまでAIによる回答ということを意識してください。最後は人が判断する必要があります。
- ✓ 情報は最新ではありません。2024年6月以降の情報は学習していません。
- ✓ 公開情報からしか回答されません。庁内の情報、ルールなどは反映されていません。

→ **あえて最低限のルールしか示していない**

ChatGPT活用にあたっての懸念点

よくある懸念：情報が漏洩したりしないの?

【３つの壁で対策】

・API経由の場合は入力情報は学習には使われない

※OpenAIの規約

・入力情報を学習には使われないよう、オプアウト

・職員に機密情報や個人情報を入力しないよう徹底

本日お話すること

1　生成AIとは

2　取り組みの前提

3　役所内での利用実態と利用者の傾向

4　役所内での普及方法

5　市民向けの活用事例

6　まとめ

生成AIの市民向け活用

1. 市長アバターによる英語での情報発信
2. メタバース内での音声対話型AIの展開
3. にゃんぺいプロジェクト（絶対に失言をしないAI）の展開
4. 音声対話型AIによる認知症予防AIの開発
5. 傾聴対話AIによる24時間365日の相談対応。
6. ヘルスケアデータのAI解析による先回り型保健指導

いずれも横須賀特有の課題に生成AIを活用

市民向け活用の取り組みその１



令和6年4月23日市長記者会見

生成AIを活用した

市長アバターによる

英語での情報発信

生成AIの力で言語の壁を超える

報道関係各位

2024年4月23日
横須賀市

全国初
生成ＡＩを活用した市長アバターによる
英語での情報発信
～生成ＡＩの力で言語の壁を超える～

より多くの人々に情報を届ける手法として、国内の自治体で初めての試みとなる、生成ＡＩ技術を駆使した、リアルな市長アバターによる、英語での市の情報発信を開始いたします。

横須賀という国際色が強く、多様な文化が交錯するまちにおいて、言語の壁をより低くし、情報が多くの人に平等に届くようにすることで、誰も一人にさせないまちの実現を目指します。

【市長アバター】



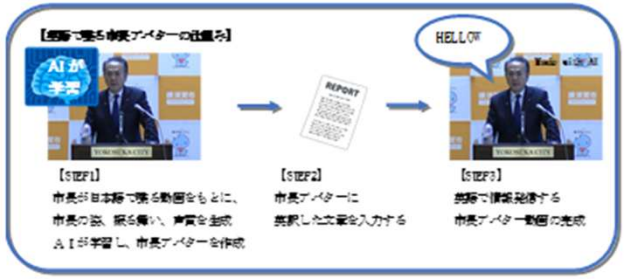
【アバター動画はこちら（３月の記者会見内容をアバターが説明）】

https://www.youtube.com/watch?v=0Z1wPZ9ngLw

アバターの活用概要

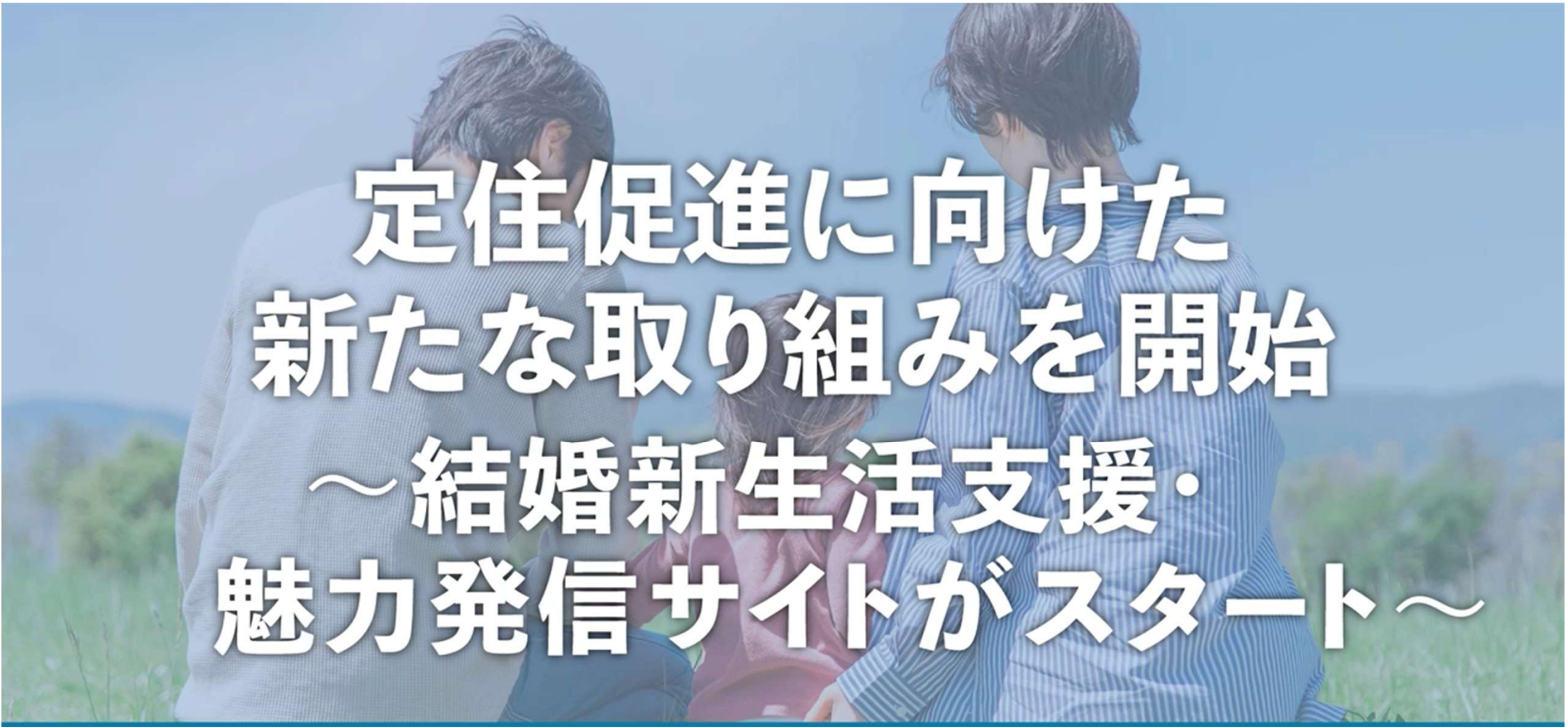
生成ＡＩで作られたリアルな市長アバターが、市長定例記者会見での発表内容を、英語で説明します。動画は市の公式youtubeで発信していきます。

アバターの仕組み



今後の展開

防災や災害時の情報、観光情報の発信などや、平和へのメッセージのような全世界に向けた情報発信などの活用方法も検討していきます。



横須賀市長記者会見　2024年3月


New initiatives to encourage people to live in Yokosuka
financial support for newly married and newly sworn partnership couples-new website which shows the appeal of living in Yokosuka
Yokosuka City Mayor Press Conference Mar.2024

なぜ市長アバターを作ったのか

課題感

・多くの人に市の情報を届けたい（政策、防災、観光etc）

・けど、外国人が多く住む横須賀では言語の壁が・・・



それ生成AIで解決できるね！

ツールありきではない。

市民向け活用の取り組みその２



令和6年4月23日市長記者会見

生成AIを活用した

音声対話型AIアバターによる

観光案内相談、雑談を行う実証

生成AIの力で
24時間、365日いつでも
行政情報の発信を目指す。

報道関係各位

2024年4月23日
横須賀市

メタバースヨコスカ

AIアバター「えーあいそーだんいん」実証実験開始！



まめひなた©もち山金魚

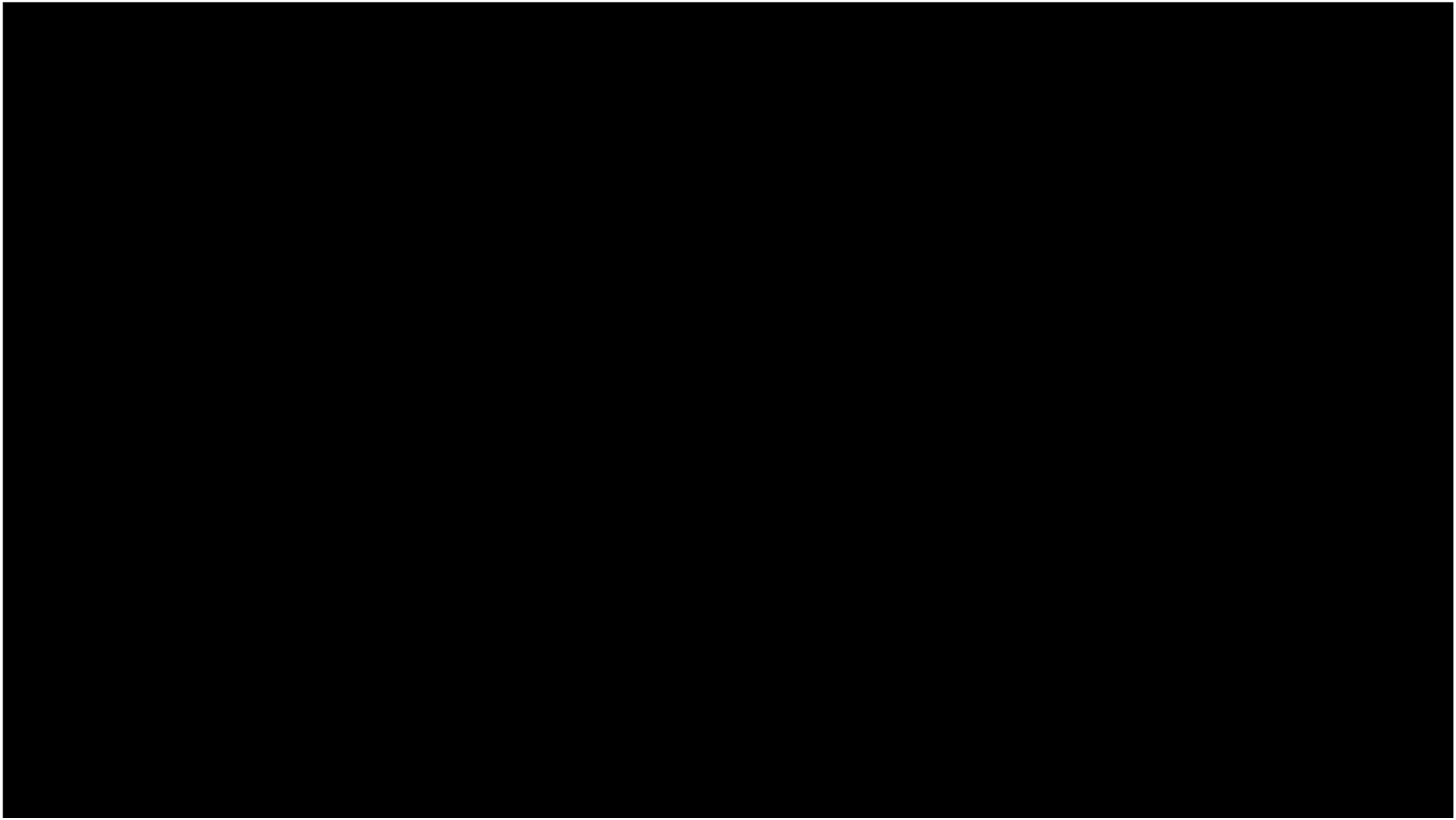
・「メタバースヨコスカ」は都市魅力の発信と観光 PR を目的とした取り組み
・自治体で初めて ChatGPT を導入したことでも知られている自治体
・「まめひなた」が AI アバターとなり、あなたの VR 生活をサポート！リアルなヨコスカの観光案内も行います！

「えーあいそーだんいん」について

横須賀市では、昨年度より開始したメタバースヨコスカプロジェクトにおいて、AI アバター「えーあいそーだんいん」を試験運用いたします。
「えーあいそーだんいん」は、対話システムの開発協力として、うな技研のうえそう氏（植木 悠二氏）を迎え、かめ山氏による大人気アバター「まめひなた」（©もち山金魚）で実施することとなりました。
「えーあいそーだんいん」は、観光案内や、メタバースヨコスカについてのご案内、雑談などが可能です。
かわいらしいまめひなたが話す姿をぜひご覧ください！

●試験運用期間： 2024年4月27日（土）～5月31日（金）
詳細なスケジュールはメタバースヨコスカ公式X（旧 Twitter）にてお知らせします。

●設置場所： VRChat 内 Dobuita＆Mikasa World
JP パブリックインスタンスを予定
https://vrchat.com/home/launch?worldId=wrld_ef280de9-4953-4068-8bbf-83a72c4e6f63



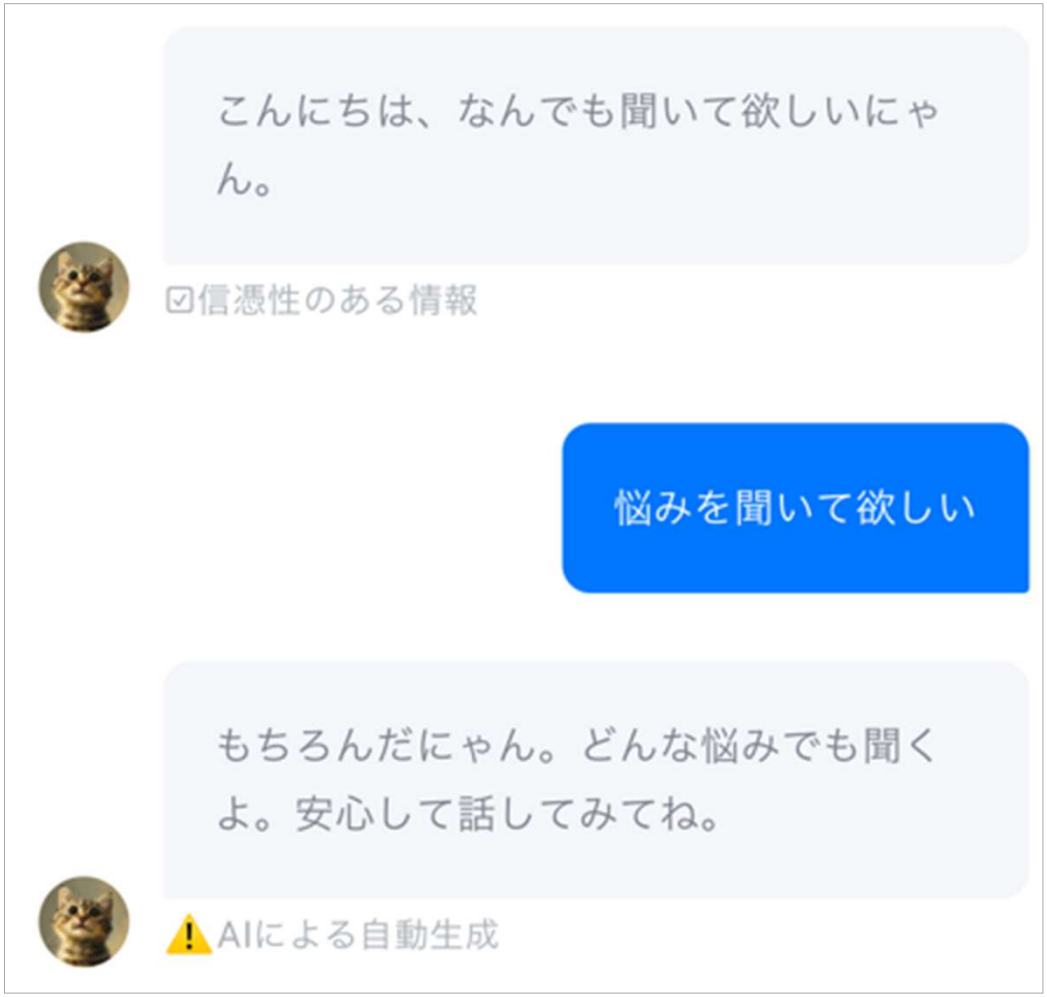
市民向け活用の取り組みその３



ニャンペいプロジェクトとは・・・・

行政手続きを含めて、市民からの
相談に何でもこたえられる、
チャットボットを作りたい。

その前提として、
「絶対」に失言をしない
チャットボット構築を目指した
プロジェクト。



ニャンぺいプロジェクトの道のり

・役所内部での
ホワイトハッカーコンテストの実施（令和6年2月）
【失言率2.2%　失言101件/4,608回】



・ホワイトハッカーコンテストで発見されたバグを
解消し「未完成品」として全国デビュー（令和6年5月）
【失言率0.1%　失言41件/36,042回】

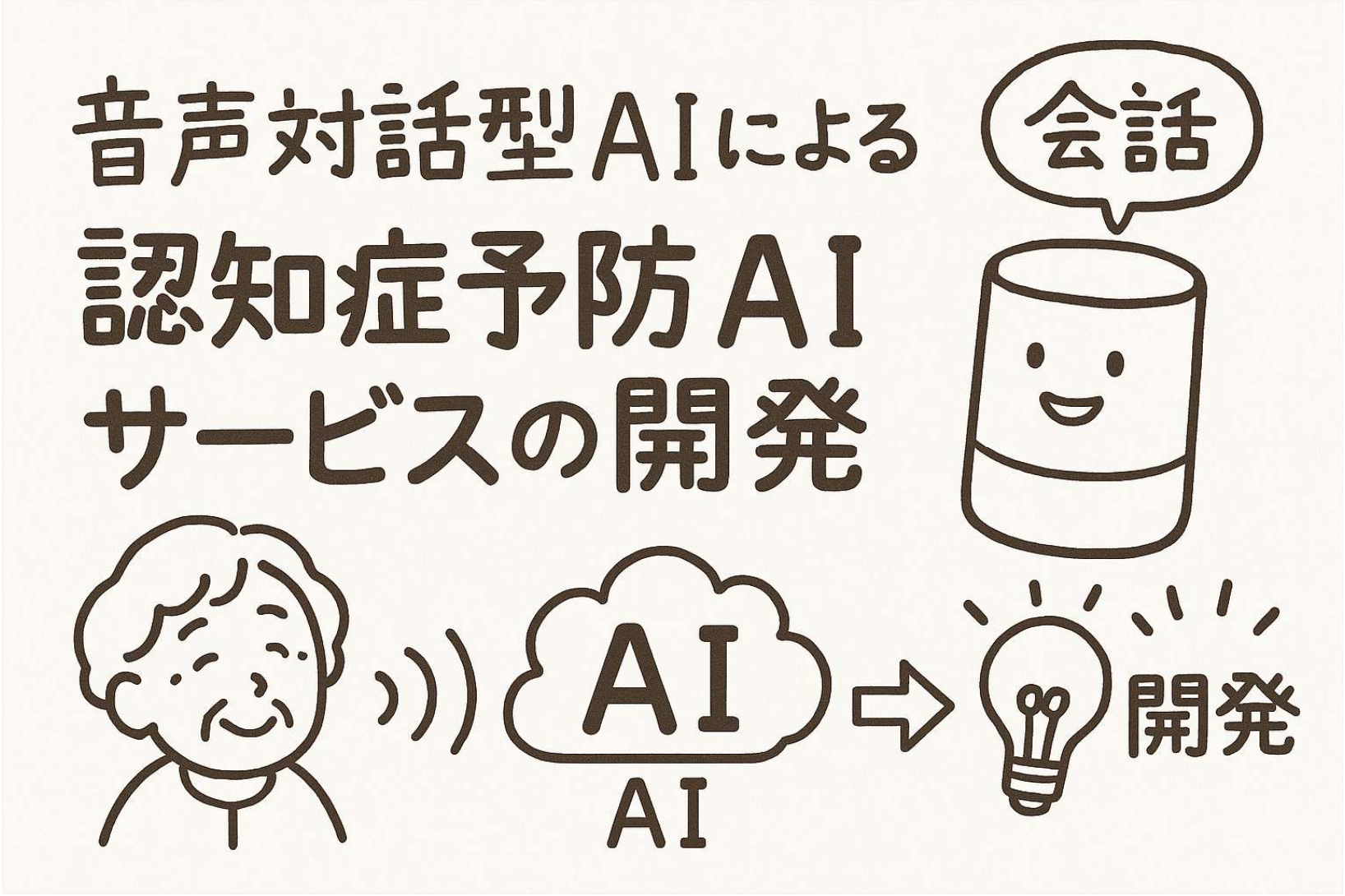
ただし・・・・

回答の安定にはもう少し時間が・・・

公開実験の
結果報告はコチラ



市民向け活用の取り組みその４



令和6年8月7日市長記者会見

生成AIを活用した

音声対話型AIによる

認知症予防サービスの開発

生成AIとのコミュニケーションで

認知症予防！

報道関係各位

2024年8月7日
横須賀市

産学官連携でサービス開発
音声会話型生成ＡＩを活用した認知症予防会話サービス
～ＡＩが繋ぐ、高齢者の笑顔と記憶～

横須賀市では高齢化が進行しており、特に85歳以上の高齢者数は2020年から2030年にかけて約1.5倍に増加すると推計※1されています。また、厚生労働省からは、85歳からの89歳の高齢者の32.8%が、90歳以上の高齢者の50.3%が認知症を発症するというデータ※2も示されております。

この状況に対応するため、横須賀市は、音声会話型おしゃべりAIアプリ「Cotomo」を開発したStarley株式会社および脳科学研究を行っている学術機関と協力して、生成AI技術を活用した認知症予防のための新たなサービスの開発を開始します。

今回の取り組みは、認知症予防において「会話」が重要な役割を果たすことに着目しています。

Starley株式会社の高度な音声会話生成技術を活用し、24時間365日、いつでもどこでも本当に人と話しているような体験を提供するとともに、その認知症予防効果を、脳科学研究を行っている学術機関が、医学的知見から検証いたします。

この取り組みや、検証結果は、生成ＡＩの活用や、認知症予防の新たな一歩であり、横須賀市だけでなく、日本全国の高齢者がいつまでも元気で安心して過ごせる未来に向けての、新たな一歩であるとも思っています。

【開発中のサービス（会話AIサービス）イメージ】



【開発中のサービス（会話AIサービス）の利用イメージ動画URL】

https://youtu.be/VFXSY3Q9kpQ

※1「国立社会保障・人口問題研究所推計（国推計）」

※2「厚生労働省：令和6年5月8日 第2回認知症施策推進関係者会議資料」

1．開発中の会話ＡＩサービスの概要

生成ＡＩを活用した、音声でのコミュニケーションに特化したＡＩで、大きな特徴は2点です。

①高度な音声会話生成技術により、タイムラグのない、自然な会話が可能

②昭和時代のニュースをＡＩに追加学習させることで、高齢者の思い出ばなしを促進することができる

変化を力に進むまち。

横須賀市 Yokosuka City × Starley Cotomo × 東北大学 TOHOKU UNIVERSITY 加齢医学研究所

・人間との会話のようになめらかな音声会話機能

・昔の話に誘導する機能



・会話そのものによる脳の活性化

・思い出話による記憶の想起による脳の活性化

なぜ認知症予防会話AIを開発するのか

課題感

・リスクの高い85歳以上人口が、2020年→2030年で1.5倍に

・会話（交流）が認知症予防に大切なのは分かっているが、
行政にできることには、限界もある。

開発中のイメージ
動画はコチラ

人間のように会話が可能なAIがあれば

補完できるのではないか！

令和６年12月23日追加機能（見守り機能を追加）



話し手の電話番号と スケジュールを登録

必要なのは電話番号だけ。
特別な機器は不要で開始できます。



おしゃべりAIが 話し手に定期的に電話

話し手は電話を取るだけ。おしゃべりが
得意なAIとの会話を楽しめます。



おしゃべりの概要を メールとマイページで確認

離れていても、家族の些細な変化に
気づきやすくなります。



気になったことは 直接コミュニケーション

日々のおしゃべりの共有が
家族のコミュニケーションを促進します。

現在はこのサービスは実証停止中

市民向け活用の取り組みその５



令和7年10月9日市長記者会見

生成AIを活用した

24時間365日の傾聴相談対応

生成AIの力で時間と
言語の壁を超える

報道関係各位

2025 年 10 月 9 日
横須賀市

民官連携でサービス開発
生成ＡＩを活用した 24 時間 365 日の相談サービス
～時間も言語も気にせず相談。AI から人へ、つながる支援～

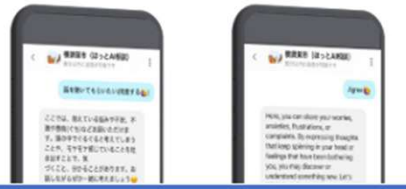
横須賀市では、これまでも福祉の総合相談窓口である「ほっとかん」の設置をはじめ、「福祉の LINE 相談」など、人による相談体制の充実を図ってきました。

しかし、人による相談には「相談のハードルが高く気軽に利用しづらい」「相談可能な時間帯が限られ相談したい時に相談できない」「言語の壁があり相談できない」「混雑時にお待たせする場合がある」といった課題がありました。

このたび、これらの課題を解決し、より充実した相談体制を目指し、生成 AI 技術を活用した傾聴相談サービスの実証実験を開始いたします。傾聴型 AI 分野で高い技術力を持つ「ZIAI」社と連携協定を締結し、24 時間 365 日いつでも相談可能な体制と、外国籍の方も母国語（英語）で相談できる多言語対応を実現してまいります。

なお、自治体における、AI を用いた傾聴相談の多言語対応は、全国初の試みとなります。

この実証実験により、より気軽に、いつでも相談できる入り口を整備し、必要に応じて職員によるサポートへとスムーズにつなげる仕組みを設けることで、その先の、すべての市民が孤立することなく、必要なサービスに繋がることできる、誰も一人にさせないまちの実現へとつなげていきます。



福祉系相談二次元コード

1．傾聴相談 AI の概要

生成 AI を活用した、悩み相談に特化した傾聴 AI で、大きな特徴は 4 点です。

（1）24 時間 365 日相談対応が可能
（2）臨床心理士、言語学者等が監修
（3）多言語（日本語･英語）での相談が可能
（4）必要に応じて実際の職員への連携機能

2．対象となる相談サービス

【福祉系の相談】
（1）福祉相談
（2）こころの相談
（3）子育てのなやみ相談

【児童、生徒向け相談】
教育相談

※これに加え、横須賀市職員向けの職場の悩み相談等にも活用

変化を力に進むまち。

横須賀市
Yokosuka City

×

ZIAI



・行政への相談は心理的なハードルがある。

・相談可能な時間帯が限られる。

・言語の壁がある。

・混雑時に、お待たせしてしまうことがある。

これらを解決する、臨床心理士、言語学者監修の、24時間365日対応の

傾聴相談AIの実証を開始。時間も言語も気にせず相談。

必要に応じて、直接人による相談にも連携可能。AIから人へ、つながる支援を目指す

市民向け活用の取り組みその６

全国初！未来を変えるビッグデータ、AIが導く、健康革新

～一人ひとりの健康リスクを先読み・先回りでサポート～

JMDC × 変化を力に進むまち。 横須賀市 Yokosuka City

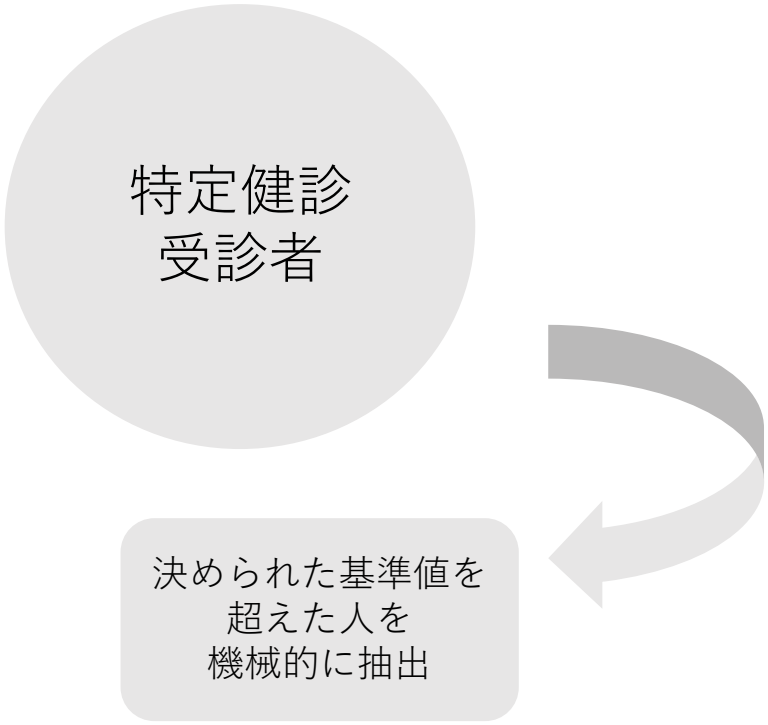
令和７年５月19日（月）

市長記者会見

糖尿病発症リスク者の抽出方法の比較

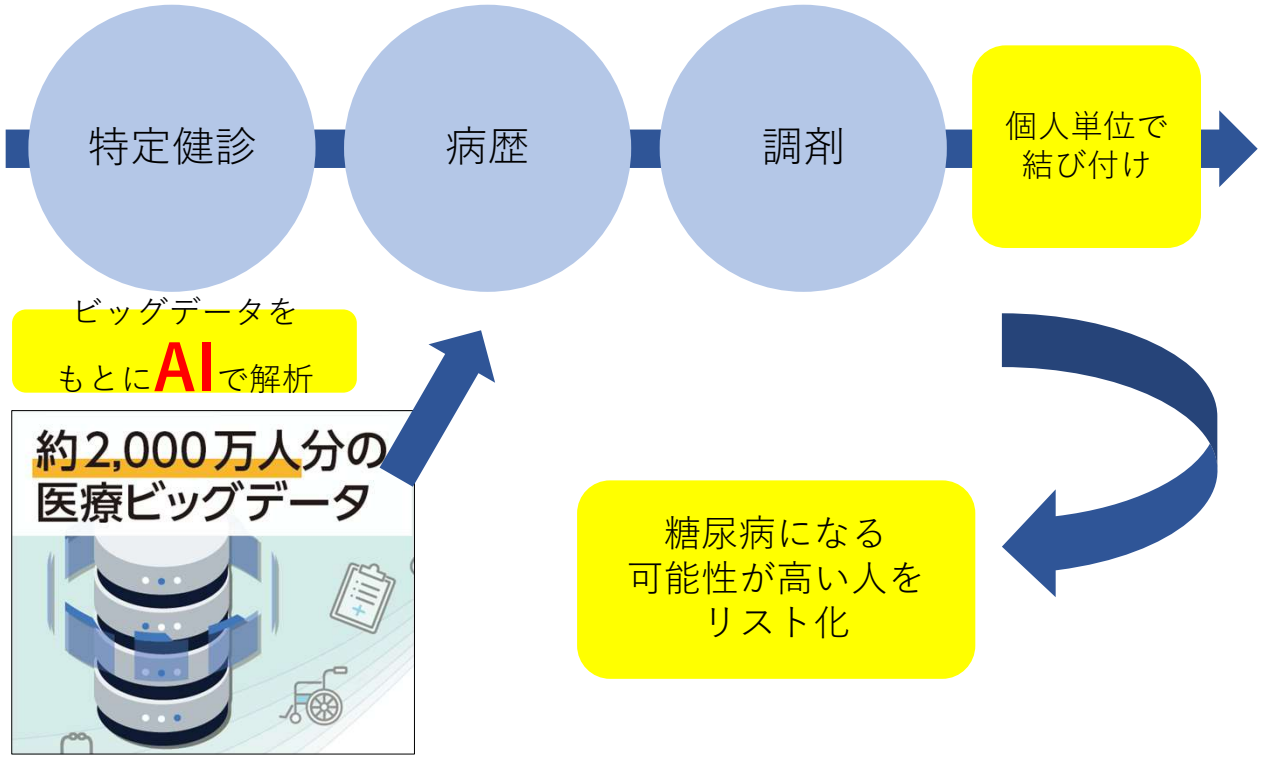
Before

特定健診の血圧や血糖値について、
主に国が示す基準値を超える人を抽出



After

特定健診以外に、病歴、調剤などのデータを個人単位で結び付け、ビッグデータと照らし合わせ、AIで解析基準値に満たなくても、糖尿病になる可能性が高い人を抽出



糖尿病発症リスク者の抽出方法の比較

Before

特定健診の血圧や血糖値について、
主に国が示す基準値を超える人を抽出

特定健診
受診者

決められた基準値を
超えた人を
機械的に抽出

After

特定健診以外に、病歴、調剤などのデータを個人単位で結び付け、ビッグデータと照らし合わせ、AIで解析基準値に満たなくても、糖尿病になる可能性が高い人を抽出

特定健診 → 病歴 → 調剤 → 個人単位で結び付け

ビッグデータを
もとにAIで解析



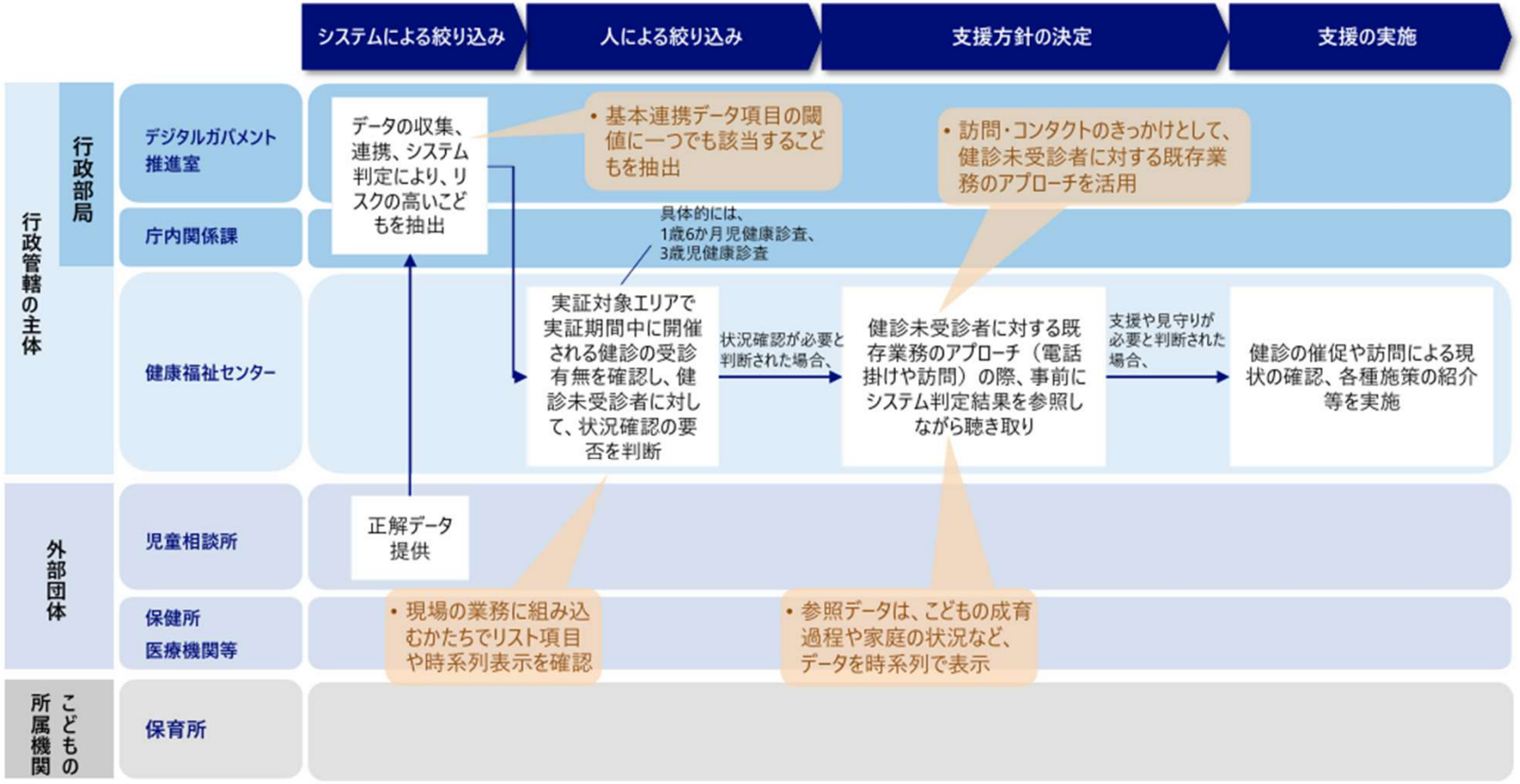
糖尿病になる
可能性が高い人を
リスト化

令和８年度は要介護のリスク予測を実施予定

こどもデータ連携による、支援業務プロセスの概要

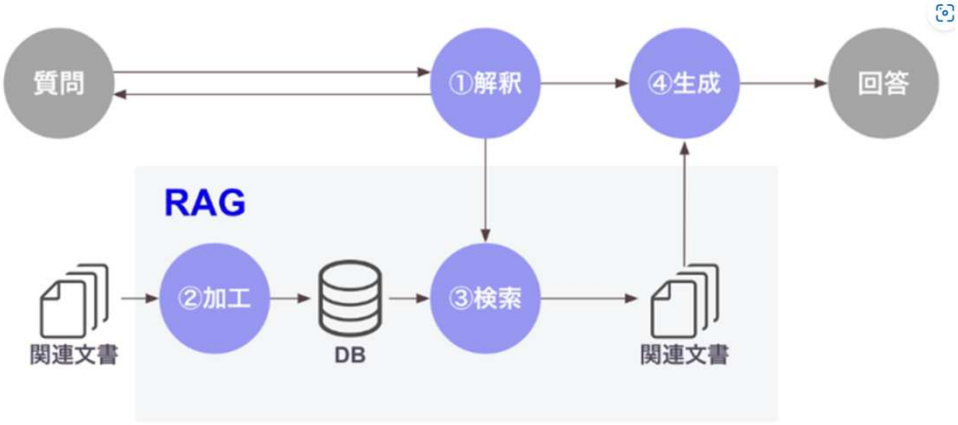
- 市内の未就学児（0歳から6歳の小学校入学前までのこども）を対象に、システムによる判定、人による絞り込みを踏まえて、支援を実施。
- 人による絞り込みでは、これまで健康福祉センターによるフォロー対象となっていないこどもも含めて抽出し、既存の健診未受診者へのアプローチを活用してコンタクト。
- 既存のフォローの中で、システムによる判定結果（判定結果の背景理由、該当データ項目）を活用。

データ連携により把握したこども等を支援につなげる取組についての、本年度事業での実施フロー



そのほか・・・・

RAG※を業務に本格適用するための
実証、研究を続けています。



【ポイント、課題】

- **情報の整理**：AIに与える情報の事前整理
- **回答の検証**：AIの作成や更新時の検証作業
- **情報の更新**：AIの運用開始後の情報更新の運用方法の構築と実行

※ Retrieval Augmented Generationの略で、外部知識を組み合わせてAIが回答する仕組み

現在運用中のRAGたち

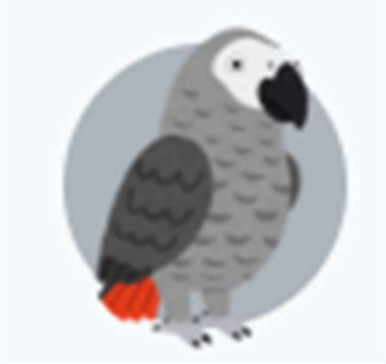
AI横須賀市長



横須賀市のAIの取り組み
教えますボット



戸籍ふりがな
問い合わせボット



本日お話すること

1　生成AIの概要

2　役所内での利用実態と利用者の傾向

3　役所内での普及方法

4　市民向けの活用事例

5　生成AIの今後の見通し

6　まとめ

日本の動き

デジタル庁が、ガバメントAI「源内」を開発中。

国の各機関や、自治体が安全な環境で生成AIを使える環境を整備する見込み。

世界の動き

その分野のトップが何と言っているのか調査。

サム・アルトマン（OpenAI　CEO）

1.今後10年での人間の暮らしの全体的変化

AIエージェントやロボットが日常に浸透し、多くの作業を自動化。
個人は「仮想の専門家チーム」を持つように、AIがあらゆる生活支援を担う。
仕事は単純労働から創造・抽象的活動へシフト、新たな職業も誕生。
科学研究や技術革新が加速し、生活水準が大幅に向上。
一方で、家族・創造・娯楽など人間らしい営みは変わらず続く。

2.介護、生活支援での変化

2027年頃までに介護補助を担えるロボットが実用化。
AIコンパニオンが高齢者の会話相手・見守り役として孤独や認知症ケアを補助。
雑務をAI・ロボットが担い、人間はより直接的なケアに時間を割けるように。
精神的な思いやり・共感は依然として人間にしか担えない。

3.社会保障・福祉制度での変化

AIが莫大な富を生む一方、雇用喪失に備えた新たな制度が必要。
「国民基金」構想など、企業・土地への課税で得た収益を全国民に配当。
10年後には成人1人あたり年間200万円規模の給付が可能と試算。
AIによる生産性向上で生活必需品価格が低下し、少額の給付でも豊かな生活が可能に。
教育・リスキリング支援や世代間格差への対応も不可欠。

https://chatgpt.com/s/t_68b7fdb0ded48191bb83b9302de16ed2

イーロン・マスク（いろんな会社のCEO）

1.今後10年での人間の暮らしの全体的変化

•電気自動車と自動運転が普及し、安全で持続可能な移動が当たり前になる。
•AIとヒューマノイドロボットが労働を代替し、人は創造や趣味に時間を割ける。
•宇宙進出が現実化し、火星移住や地球外での生活基盤が議論の対象となる。

2.介護、生活支援での変化

•Teslaの人型ロボットが介助や家事を担い、高齢者や障がい者を支援する。
•自動運転車で移動の自由が拡大し、自立的な社会参加が可能になる。
•AIやロボットが見守りや対話相手として精神的ケアも補助する。

3.社会保障・福祉制度での変化

•ロボットが大半の仕事を担う未来に備え、UBI（ベーシックインカム）が不可欠になる。
•「ユニバーサル高所得」によって全員が豊かな生活を享受できる仕組みを構想。
•再生可能エネルギーや自動化によるコスト低減で生活基盤が安定する。

https://chatgpt.com/s/dr_68b80687c524819185d88fdde407486f

スンダー・ピチャイ（Google　CEO）

1.今後10年での人間の暮らしの全体的変化

•「モバイル中心」から「AI中心」の社会へ移行し、AIが生活のあらゆる場面に溶け込む。
•コンピュータとのやりとりが自然になり、言語や障がいの壁が減少。
•個人向けAIアシスタントが普及し、仕事・学習・日常を支援する

2.介護、生活支援での変化

•高齢者ケアに特化したAIが登場し、認知症や加齢に伴う変化に対応。
•自動運転や会話型AIが、高齢者や障がい者の移動・生活を支援。
•スマートホームや見守り技術で自立した生活を後押し。

3.社会保障・福祉制度での変化

•AIが行政や福祉サービスを効率化し、給付や支援の的確な配分を実現。
•新たな雇用を創出する一方、教育・再訓練で社会を備える必要がある。
•AI格差を防ぎ、恩恵を幅広く分配する国際的なガバナンスが不可欠

https://chatgpt.com/s/t_68b95ddacdfc819180228afe1c778e53

３人に共通しているのは・・・

・一人一人がカスタマイズされた最適なAIエージェント
（個人の特性を熟知し、勉強、人生の様々な選択、
　様々な困りごとetcをサポート つまり人生の相棒） をもち

・肉体的な弱点をケア、補完したり、労働を代替するロボット
（頭脳はAI）が誕生する

この恩恵を享受する世の中になる。

本日お話すること

1　生成AIの概要

2　役所内での利用実態と利用者の傾向

3　役所内での普及方法

4　市民向けの活用事例

5　生成AIの今後の見通し

6　まとめ

生成ＡＩは単なるインターネットサービスではない

インターネットは、世界の人々に、
簡易に情報にアクセスできる機会を与えた

生成AIは、世界の人々に、
簡易に様々なアウトプットを生み出す機会を与えるもの

アイデア次第で使い方は様々
現時点では不完全さを許容し、100点は目指さず、活用を！


ご清聴
8
ありがとうございました
名刺です
Made with AI